

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成25年9月10日

【四半期会計期間】 第117期第2四半期(自平成25年5月1日至平成25年7月31日)

【会社名】 株式会社きんえい

【英訳名】 Kin-Ei Corp.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 丸山隆司

【本店の所在の場所】 大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目5番1号

【電話番号】 06(6632)4553番

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 好井裕一

【最寄りの連絡場所】 大阪市阿倍野区阿倍野筋1丁目5番1号

【電話番号】 06(6632)4553番

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 好井裕一

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第116期 第2四半期累計期間	第117期 第2四半期累計期間	第116期
	自 平成24年2月1日 至 平成24年7月31日	自 平成25年2月1日 至 平成25年7月31日	自 平成24年2月1日 至 平成25年1月31日
売上高 (千円)	1,509,689	1,573,608	3,112,188
経常利益又は経常損失 ( ) (千円)	10,590	43,900	3,389
四半期純利益又は 四半期(当期)純損失 ( ) (千円)	22,706	23,787	25,484
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)			
資本金 (千円)	564,200	564,200	564,200
発行済株式総数 (千株)	28,210	2,821	28,210
純資産額 (千円)	1,625,616	1,618,683	1,623,477
総資産額 (千円)	5,357,117	5,150,737	5,227,204
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期(当期)純損失金額 ( ) (円)	8.13	8.52	9.13
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
1株当たり配当額 (円)			1.00
自己資本比率 (%)	30.3	31.4	31.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	235,024	326,471	370,943
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	130,618	115,252	200,568
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	104,922	204,623	181,233
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	78,405	74,658	68,063

回次 会計期間	第116期 第2四半期会計期間	第117期 第2四半期会計期間
	自 平成24年5月1日 至 平成24年7月31日	自 平成25年5月1日 至 平成25年7月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額 ( ) (円)	8.34	3.09

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成していないので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

- 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 当社は関連会社を有していないため、持分法を適用した場合の投資利益は記載しておりません。
- 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 当社は、平成25年6月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。第116期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額又は四半期(当期)純損失金額を算定しております。

## 2 【事業の内容】

当第2四半期累計期間において、当社が営む事業の内容に重要な変更はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による積極的な財政政策や金融緩和の実施を背景に円安・株高が進行し、雇用・所得環境の本格的な改善には至らないものの、一部に景気回復に向けた持ち直しの動きが見られるなど、先行きへの期待感が広がる中で推移しました。

この間当社におきましては、事業全般に亘って顧客満足度のより高いサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理のさらなる徹底を図り、集客と収入の確保に努めましたところ、売上高は1,573,608千円(前年同期比4.2%増)となりました。

費用の面におきましては、全社において業績管理を徹底し、諸経費全般に亘って鋭意削減に努めました結果、営業利益は50,464千円(前年同期は5,742千円の営業損失)となり、経常利益は43,900千円(前年同期は10,590千円の経常損失)、四半期純利益は23,787千円(前年同期は22,706千円の四半期純損失)となりました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

#### シネマ・アミューズメント事業

##### (A) 概要

劇場事業では「モンスターズ・ユニバーシティ」「名探偵コナン」「テッド」「ドラえもん」「風立ちぬ」「真夏の方程式」「プラチナデータ」「シュガー・ラッシュ」「ドラゴンボールZ」「ダイ・ハード/ラスト・デイ」などの話題作品を上映して観客誘致に努めました。

また、阿倍野地区で唯一の映画館であることを広く訴求するため、平成25年7月1日より劇場名を「アポロシネマ8」から「あべのアポロシネマ」に変更したほか、デジタルサイネージ、メールマガジン、ブログ、ツイッターなど各種メディアを利用した情報発信を活発に行うとともに、「あべのハルカス」や「あべのキューズモール」との共同販売促進活動を展開し、増加する阿倍野地区来街者への積極的な働きかけを行いました。

さらには、昨年より設置を始めた自動券売機をチケットカウンター横に移動のうえ計4台に増設するなど、顧客利便の向上と省人化による経費節減にも意を用いましたので、劇場事業では前年同期を上回る成績となりました。

一方、遊戯場事業におきましては劇場事業との連携による集客を重点的に推進しました結果、この部門全体の収入合計は、654,005千円(前年同期比4.3%増)となり、営業原価控除後では23,759千円のセグメント損失(前年同期は38,631千円のセグメント損失)となりました。

## (B) 営業成績

区分	単位	当第2四半期累計期間 (平成25年2月1日から 平成25年7月31日まで)	前年同期比(%)
劇場入場人員	千人	365	18.5
劇場収入	千円	478,026	10.5
遊戯場収入	千円	175,978	9.6
合計	千円	654,005	4.3

## 不動産事業

## (A) 概要

安全で快適なビル環境の整備を継続的に推進するとともに、「アポロシネマメンバーズ」の会員が当面の目標であった10万人を突破したことを記念して、アポロビル、ルシアスビルにおける販売促進活動を行うなど劇場事業との連動を重視した誘客に努めたほか、ルシアスビル1階のルシアスステージを開放し、地域連携によるパフォーマンス公演「あべのAステージ」を定期的に開催するなど販わいの創出にも注力いたしました。

また、ビル空室率の低減を図るべく、テナント誘致活動を精力的に推進する中で、とりわけルシアスビル事務所フロアの空室率が大幅に改善したことなどから、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めたこの部門全体の収入合計は、919,602千円（前年同期比4.2%増）となり、営業原価控除後では228,873千円（前年同期比17.5%増）のセグメント利益となりました。

## (B) 営業成績

区分	単位	当第2四半期累計期間 (平成25年2月1日から 平成25年7月31日まで)	前年同期比(%)
不動産賃貸収入	千円	787,074	3.8
不動産付帯収入	千円	119,725	2.2
その他事業収入	千円	12,802	77.0
合計	千円	919,602	4.2

## (2) 財政状態の分析

## (資産)

当第2四半期会計期間末における総資産は、固定資産の減価償却等により前期末に比較して76,467千円減少し、5,150,737千円となりました。

## (負債)

負債は、借入金の返済等により、前期末に比較して71,673千円減少し、3,532,053千円となりました。

## (純資産)

純資産は、配当金の支払い等により利益剰余金が減少したため、前期末に比較して4,793千円減少し、1,618,683千円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は営業活動による収入が、投資活動及び財務活動による支出を上回ったため、前事業年度末に比較して6,594千円(9.7%)増加し、74,658千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動で得られた資金は、326,471千円で前年同期と比較して91,447千円増加しました。これは、減価償却費の減少や法人税等の支払額の増加に比べ、税引前四半期純利益の増加が上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動で使用した資金は、有形固定資産の取得や短期貸付金の増加により115,252千円の支出となりました。前年同期と比較しますと、有形固定資産の取得による支出額が減少したこと等により15,365千円支出額が減少しております。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動で使用した資金は、借入金の返済等により204,623千円となりました。前年同期と比較しますと、借入金の返済額の増加等により99,701千円支出額が増加しております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

(注) 平成25年4月26日開催の定時株主総会において10株を1株とする株式併合が承認され、当該株式併合に伴い定款の一部変更が行われた結果、発行可能株式総数は平成25年6月1日より72,000,000株減少し、8,000,000株となっております。

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年7月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年9月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,821,000	2,821,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数 100株
計	2,821,000	2,821,000		

(注) 平成25年4月26日開催の定時株主総会において10株を1株とする株式併合が承認され、当該株式併合に伴い定款の一部変更が行われた結果、平成25年6月1日より発行済株式総数は2,821,000株となり、単元株式数は2,000株から100株となっております。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年6月1日 (注)	25,389	2,821	-	564,200	-	24,155

(注) 平成25年4月26日開催の定時株主総会において10株を1株とする株式併合が承認され、当該株式併合に伴い定款の一部変更が行われた結果、発行済株式総数は平成25年6月1日より2,821千株となっております。

(6) 【大株主の状況】

平成25年7月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (近畿日本鉄道株式会社退職給付信託口)	東京都港区浜松町2 11 3	1,270,000	45.01
近鉄保険サービス株式会社	大阪市天王寺区上本町5 7 12	250,800	8.89
近畿日本鉄道株式会社	大阪市天王寺区上本町6 1 55	163,600	5.79
岸本ビル株式会社	大阪府河内長野市汐の宮町29 7	25,150	0.89
株式会社近鉄百貨店	大阪市阿倍野区阿倍野筋1 1 43	17,200	0.60
株式会社近鉄リテールサービス	大阪市天王寺区上本町6 5 13	15,767	0.55
南野 顕夫	大阪府東大阪市	11,800	0.41
南園 良三郎	奈良県奈良市	6,200	0.21
東野 治彦	大阪市住吉区	6,000	0.21
日本ファシリオ株式会社	東京都港区北青山2 12 28	5,340	0.18
計		1,771,857	62.80

(注) 1 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(近畿日本鉄道株式会社退職給付信託口)名義の株式は、日本マスタートラスト信託銀行株式会社と三菱UFJ信託銀行株式会社との共同受託に基づく退職給付信託で、近畿日本鉄道株式会社の信託財産であります。

2 当社は、自己株式30,828株(1.09%)を所有しており、上記大株主からは除外しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 30,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,729,500	27,295	
単元未満株式	普通株式 60,700		
発行済株式総数	2,821,000		
総株主の議決権		27,295	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式28株が含まれております。



【自己株式等】

平成25年7月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社きんえい	大阪市阿倍野区 阿倍野筋1 5 1	30,800		30,800	1.09
計		30,800		30,800	1.09

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期会計期間(平成25年5月1日から平成25年7月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成25年2月1日から平成25年7月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1【四半期財務諸表】  
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	68,063	74,658
売掛金	94,935	91,750
商品	3,304	4,037
その他	258,585	349,378
貸倒引当金	380	270
流動資産合計	424,508	519,555
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,542,384	2,406,914
機械及び装置(純額)	78,132	72,500
工具、器具及び備品(純額)	69,241	72,613
土地	1,123,748	1,123,748
有形固定資産合計	3,813,506	3,675,776
無形固定資産	68,537	61,204
投資その他の資産		
差入保証金	884,340	858,955
その他	36,311	35,245
投資その他の資産合計	920,651	894,201
固定資産合計	4,802,695	4,631,182
資産合計	5,227,204	5,150,737
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	83,654	104,171
1年内返済予定の長期借入金	350,920	450,920
未払法人税等	6,773	36,593
賞与引当金	9,500	10,000
その他	365,080	414,548
流動負債合計	815,927	1,016,233
固定負債		
長期借入金	692,420	416,960
退職給付引当金	65,130	67,510
受入保証金	1,619,239	1,632,688
資産除去債務	272,211	274,270
その他	138,798	124,390
固定負債合計	2,787,799	2,515,820
負債合計	3,603,726	3,532,053

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年1月31日)	当第2四半期会計期間 (平成25年7月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,138,027	1,133,905
自己株式	104,212	105,853
株主資本合計	1,622,170	1,616,408
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,307	2,275
評価・換算差額等合計	1,307	2,275
純資産合計	1,623,477	1,618,683
負債純資産合計	5,227,204	5,150,737

(2)【四半期損益計算書】  
【第2四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)
売上高	1,509,689	1,573,608
営業原価	1,353,526	1,368,493
営業総利益	156,162	205,114
一般管理費	161,905	154,650
営業利益又は営業損失( )	5,742	50,464
営業外収益		
受取利息	795	771
受取配当金	69	91
違約金収入	2,666	900
雑収入	2,445	991
営業外収益合計	5,975	2,753
営業外費用		
支払利息	10,814	8,573
雑支出	9	743
営業外費用合計	10,823	9,317
経常利益又は経常損失( )	10,590	43,900
特別損失		
固定資産除却損	24,676	2,364
特別損失合計	24,676	2,364
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失( )	35,266	41,536
法人税、住民税及び事業税	2,100	34,900
法人税等調整額	14,660	17,150
法人税等合計	12,560	17,749
四半期純利益又は四半期純損失( )	22,706	23,787

## (3)【四半期キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 ( )	35,266	41,536
減価償却費	186,035	175,147
退職給付引当金の増減額( は減少)	2,098	2,379
受取利息及び受取配当金	864	862
支払利息	10,814	8,573
固定資産除却損	24,676	2,364
売上債権の増減額( は増加)	11,359	3,184
その他の流動資産の増減額( は増加)	19,877	23,808
仕入債務の増減額( は減少)	22,859	20,516
その他の流動負債の増減額( は減少)	1,835	57,366
その他	3,128	3,936
小計	240,297	337,952
利息及び配当金の受取額	799	940
利息の支払額	11,319	7,610
法人税等の支払額又は還付額( は支払)	5,246	4,812
営業活動によるキャッシュ・フロー	235,024	326,471
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	124,461	36,084
無形固定資産の取得による支出	4,044	475
短期貸付金の増減額( は増加)	138,609	116,237
差入保証金の回収による収入	210,000	25,384
受入保証金の増減額( は減少)	50,621	13,449
その他	22,881	1,290
投資活動によるキャッシュ・フロー	130,618	115,252
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入れによる収入	-	100,000
長期借入金の返済による支出	75,460	275,460
配当金の支払額	27,918	27,908
その他	1,544	1,255
財務活動によるキャッシュ・フロー	104,922	204,623
現金及び現金同等物に係る換算差額	-	-
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	516	6,594
現金及び現金同等物の期首残高	78,921	68,063
現金及び現金同等物の四半期末残高	78,405	74,658

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年2月1日 至 平成24年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年2月1日 至 平成25年7月31日)
従業員給料及び手当	67,878千円	61,858千円
賞与引当金繰入額	3,634 "	3,087 "

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係。

	前第2四半期累計期間 (自 平成24年2月1日 至 平成24年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成25年2月1日 至 平成25年7月31日)
現金及び預金勘定	78,405千円	74,658千円
現金及び現金同等物	78,405千円	74,658千円

(株主資本等関係)

前第2四半期累計期間(平成24年2月1日から平成24年7月31日まで)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年4月26日 定時株主総会	普通株式	27,918	1.00	平成24年1月31日	平成24年4月27日	利益剰余金

(注)平成25年6月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。1株当たり配当額は、当該株式併合が行われる前の金額を記載しております。

当第2四半期累計期間(平成25年2月1日から平成25年7月31日まで)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年4月26日 定時株主総会	普通株式	27,908	1.00	平成25年1月31日	平成25年4月30日	利益剰余金

(注)平成25年6月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。1株当たり配当額は、当該株式併合が行われる前の金額を記載しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期累計期間(平成24年2月1日から平成24年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・ア ミューズメント 事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	627,260	882,428	1,509,689	-	1,509,689
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	627,260	882,428	1,509,689	-	1,509,689
セグメント利益又は損失( )	38,631	194,794	156,162	161,905	5,742

- (注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。  
2 セグメント利益又は損失( )は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期累計期間(平成25年2月1日から平成25年7月31日まで)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・ア ミューズメント 事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	654,005	919,602	1,573,608	-	1,573,608
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-
計	654,005	919,602	1,573,608	-	1,573,608
セグメント利益又は損失( )	23,759	228,873	205,114	154,650	50,464

- (注) 1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。  
2 セグメント利益又は損失( )は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。



(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年7月31日)	当第2四半期累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年7月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額( )	8円13銭	8円52銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益又は四半期純損失( )(千円)	22,706	23,787
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額( )(千円)	22,706	23,787
普通株式の期中平均株式数(株)	2,791,548	2,790,575

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2 当社は、平成25年6月1日付で普通株式10株につき普通株式1株の割合で株式併合を行っております。前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年9月6日

株式会社きんえい  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 渡邊 明久 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 秦 一二三 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社きんえいの平成25年2月1日から平成26年1月31日までの第117期事業年度の第2四半期会計期間(平成25年5月1日から平成25年7月31日まで)及び第2四半期累計期間(平成25年2月1日から平成25年7月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書、四半期キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社きんえいの平成25年7月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。